



「さや糸橋へつらひかざるるさ
 仙女香をこのお母のを
 しまれゆへよこかく板本の
 まとふ筋かちやくしやうで
 そのあるうげんじよとて
 あつこちあつとらんせら
 十四八目を井浦侍三町
 三丁目西側へ
 ふまへまめついで
 ゆつこいせう
 こまのきんぎょ
 ちう

○琴とあがてん
 姫の目まのちうめむりあ
 しひるさちうへるめさう
 五か長のはやくいびまが
 るどをえいさの五かるが
 ここの古細らう

「ぶさーがかちりて
 ゆひぐちのこらうさ



題 姫

左 きりりぐまのりとおさくる 姫の心をや

右 竹猿の身振で驚と姫 驚

左 大江山一まのり女ハ鬼の首を裏表よりひえ

かがもを姫の心をやあるといひませらう。存

驚の乱れなるを双るめさちつるの愛ら

姿とえいげなるのこめて別よ意もさ。左太の

姫 驚かち同トあどらう

コサビをちやうど羽織のようぐあひあり
ついでよきめぐる人けしとせん

そのうちめやア日ぐれせう
火るをむこまはつげんあわら
んてあつた



「あつた」
あつた

あつた

題 船

左 羽織を二枚あつた雪は船

右 肩の蒲団と投えで垢ふ

左 羽織と女落着者の事を二人を二枚とりよが

通言るれが金持のちやうどあつた雪は船

網子白く猪牙舟のいちをちやうどあつた雪は船

ころあつた雪は船

あつた雪は船

乳りらひが夫の男であるやあられ
とわたり年をわたりは家の長いものつゝの満り白きあつた
あやゆも乳をかうをひきまてかんだの乳らひくはあま
おれをへるやうひきまてひきをひき通つのおれが

ゑの男どくち女あまの

あまのふち

千代が白き

あつて

あか

あま

あつて

あつて

あつて



題 妻 おつた

持

左 馬 廩 亭 女 房 さられてりらひ 乳 ぢ

右 物 喰 が よくて 下 歯 が せいぞろい

左 朝 息 子 釣 籠 さられての 千代 が 白 と おりひがねるお

と するされや。この 亭 子 も 蚊 屋 の 庭 土 を 敷くうと

馬 廩 の 字 あつて 尋 常 と の ぐれ 右 つま 喰 ぐさ

さあ の 腹 が ちよとつる 由 女 房 まで 女 房 が ちよと

るぞろ。喘 ちよとて 左 の らひ 乳 も あつた

こよめんとて これも これも えの 室 女 と ちよと 持

た

句合

日

題解

左の布ぶえ二枚を搦解持又麻ねる

右智恵の扱とめ菱解ひらのしちツ層か

左の扱とる牛面長命寺とまの山本やまもとより咲初さきて今いまの

江戸中この盛さかるる五布ぶえごふえの拍うるうで搦の葉はの

せむきを上うへ下した々々ららち合あせて解ねるるさもあへへし

右の扱とる大首形おほえびかたちの解ひらといひと搦つ率りと智恵ちえの

扱との細こうま刻きまれらう。されど左ひだり右みぎををささるる勺すくののままががららも

えええずず。この解ひら持もてて——



約合

五

「可」のちや虫あひや
 やくあひやいぬあひや
 あつらさんの人あひや
 くらうをけけあひや
 くらくめあひや
 るのをるせあひや
 かつらあひや

あこれまらして
 あつらさんあひや
 七つらさんあひや
 くらわつらさんあひや

「あつらさんあひや」



十八の
 あつら
 くらわ
 ひま
 あひや

題 三線

左 寝びとも 今日ぎう 神楽獅子出
 右 ぺんく草の虫除よ 母が付
 左 寝びまの 終りの 年 裁られ 富幸の 獅子を
 右 合せしる お掬の ひわりしる 俵うぶあや 右 ぺんく
 草とのしひても 三味線をるひよ 娘の 喜とハきこゆ
 べんれど古き句よ けねを折べうらむと 乳母を付と
 ひあがあれが 是ハ出るり 娘そよひらむの 句ともひひぐら
 行焼へつる ぺんく草より 門へさす 掬の方いさる勝らん 狭

句合

本筋がたのえびをまろてハイ
 うきうおん松と出まるとうきさの助が
 本筋よりかわねとよしうきの大むくの
 ちむんでんごころをいへむらのゆがむらうと
 作者のまのこころをいへむらうと



「あめいふらま」
 うきさの助
 あが
 らち
 よき

きんむらうぼうね

題 忠臣蔵

左 松の木を切ッて公よ 勝 寝が 寝 シ

右 田楽で 祇園よ かた 寝る 六段目

左 天下大平字で見ても な 痛が あ いふ句より 寝 と

え 痛のかまひを お 案 い たられ し 仕 し ぢ ち の こ 細 こ なるれども お 蔭

ま 間への蔭 お ぐ ま 右 あ かつ あ ち の 一 お ぢ の 裏 う ぐ り て お 寝 る 。

な 屋 ま 真 ま ごと を 田 え 楽 と い ひ る が ち 七 段 目 の あ 言 こ 重 る れ が

は 句 ふ 不 あ なる べ し これ 由 よ 良 の 助 の 赤 あ 綱 の 本 も 筋 が

早 福 の 本 の 切 味 を みる べ し

小田原町の
 老翁うらりか
 志んむん
 帳面のそのまを
 まるせうじ
 七服あり
 おか
 平
 の
 うけ
 あひ
 び
 る



小田原町の
 老翁うらりか
 志んむん
 帳面のそのまを
 まるせうじ

題 聖廟法楽

左 茶服あもるるぬ 詠りの天井記
 右 女房の荒場は甘家梅がふり
 左 景事もるるをまあまからのこの切り打さちを
 右 骨をり 換るるべし 右焼るる女房もるるの月を
 喰といふ 焼るる 一るるれど 廓のぬをるるつけい
 取て投るる 甘家梅の甘口でいりぬ女房あち左の
 茶服あまも 屍よあられで 動きいられまど



題 去る

左 武士の 矢並つくりふ 愛宕下
 右 富士の 裾野と 這て行 矢場娘
 左 武士の 矢をさつくりふあてのうし 雨敷くさるる 素浪の 藤系
 といふ 矢の 刺をそのまふりちひさし 播川の あききこえり
 夕めりあうざれど させる 難もある。 右 富士の すそ 野を
 這いづる 者ハ 夜討の大 麓内を うるらんと思ひ
 娘も ありたる 歎いと めづかし。 大 一 大 万 段 登り の 麓を
 志めて おおらん 武士の 矢をさしと 小柳の 楯をさき 止て 勝つ

題 大車

左
十日目の風入りの
鳥行水

右
五日目の巳名と
つんまる風入る草

五風十兩

句もおどろり

るれば

目あはら

持る

種彦稿
國芳画



龍澤堂皇民著

迎福南鍼録

一名相宅手引草 全部五册 迎刺

右同著

雅俗百傳奇

大本全五册 繪入 平假名附 迎刺

女消息往来

画入全一册

近來擇擇相宅の去年々々背々みられて重車申す千牛にけり
 小敷かゆひたる法初心なき家とて解ぐたところ多り抑
 へ懐紀并方書よ本つた方位空梅津筑走遊の要領と著し吉
 には凶き禍とぞい極むるべしと示すとたにるの學たりと
 し兼て不舟の切ら金餅とてくはるる九一家の主人のついで
 著らるる意極各のまらひるるき日用有益の良籍なり

この書の雅と俗とをとりあはせしは古人の列傳と輯録と
 を勸懲の一端とせされば忠孝義烈尚氣節操の世に
 乏れるる隠逸名師技藝好事とて人々を導くを得たり
 世に消息往来とありありのありて初人の人女文通の助とあり
 女消息往来とありありのありて初人の人女文通の助とあり
 世に消息往来とありありのありて初人の人女文通の助とあり

曆日講 全一册

劉卜子先生著

俳諧今四歌仙

全 梅室 禾木 桐雨 小圃 四大人の
 一作く正風の俳調當時の流ゆをり
 冊 ぞれぞれの書目あり

大書心算文

心算の秘法を記し、算術の要訣を述べ、
珠算の法を列し、年々の積算を教へ、
正負の法を述べ、算の源流を考へ、
算の法を記し、算の要訣を述べ、
算の法を記し、算の要訣を述べ、

消息往来詳註

高井蘭山速
全一冊

隅田川兩岸覽

北齋筆
全三冊

消息往来

全一冊

江戸名所東鑑

蕙齋筆
全三冊

合則壽福三世相大鑑

全冊

江戸名所

見在清長筆
全三冊

奉獨秘書

中本
山櫻連々
逸軒拙舟作

東海道

花の都路
狂歌
全三冊

教真草消息往来

全一冊

戲場頭微鏡

默漢隱作
上帳二冊
下帳二冊

御免江戸曆開板所

毎年十月下旬
發行

道法早筭用

道中記
一枚榻

載陽帖

南山禪師書
東海道
木曾海道

新日本名所之繪

唐紙摺一枚
蕙齋筆
形紹真筆

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

撰新

女古狀揃

三歌莊木本披輯
芳州集全冊 開國八州より入出羽陸奥甲斐信濃等十ヶ所の中首の歌人を
同輯 於て二百卷をありて年々之の流布に及ぶに及ばざりしを
禁蘭集全冊 追系松本伊勢道に之の尾張守の西宮殿にありて中首の歌人
刻字しむるに當りて其の流布に及ぶに及ばざりしを

歡童遊言画手本一名鳥羽繪早まひ出来
廣益懷中早割大全 小本ありて其の流布に及ぶに及ばざりしを
塵劫記 植花手引糸 前編出来 後編出来 先づ流布に及ぶに及ばざりしを

新形染彩目 前北齋為筆 後編嗣刻 先づ流布に及ぶに及ばざりしを

芝居似顔早替古 後編 全冊五渡亭國貞画 先づ流布に及ぶに及ばざりしを

即考百籤 全一冊 後編 先づ流布に及ぶに及ばざりしを

役者評判記 全三冊 後編 先づ流布に及ぶに及ばざりしを

柳亭種彦作繪草紙三種 全一冊 後編 先づ流布に及ぶに及ばざりしを

倭紫田舎源氏 全一冊 後編 先づ流布に及ぶに及ばざりしを

歌川國貞画 十四編より十七編まで開板仕仕

白間戲言句合 二冊 歌川國芳在画

浮浪さりり 六冊 歌川貞秀画

枕琴夢之通路 六冊 歌川貞秀画

上州機筆綾織 六冊 上同

井筒の莖子 紫房 六冊 歌川貞秀画

八百屋の娘 紫房 六冊 歌川貞秀画

美艷仙女香翠翁 仙女香翠翁 六冊 歌川貞秀画

黒油美玄香翠翁 仙女香翠翁 六冊 歌川貞秀画

團扇織問屋鶴屋喜音右衛門 江戸通油町



書物錦繪 問屋鶴屋喜音右衛門

